平成25年度東京都子供読書フォーラム
実践報告発表

くにたち中央図書館と ボランティア

くにたち中央図書館　軽部 直美
くにたちお話の会　　円谷 恭子

皆さんこんにちは。くにたち中央図書館で児童担当をしております軽部と申します。本日はくにたち図書館とボランティアについて発表をというお話でした。今年度当館が文科省の「子どもの読書活動優秀実践図書館」として表彰を受けることができたのは、図書館とボランティアの市民の皆さんとの長年にわたる協働の結果です。そこで、前半に図書館で行われているボランティアや市民協働について軽部が、また、後半はその具体的な協働内容について「くにたちお話の会」代表の円谷さんにお話をしていただきます。

国立市は市民活動がたいへん活発な地域で、図書館でも様々な団体が活躍されています。図書館のボランティアを語る上でも、市民活動が自主的、活発に行われている地域性を抜きには語れません。今日はその代表として「くにたちお話の会」と図書館との共同発表を行います。

「くにたちお話の会」はストーリーテリングを中心として子どもと本をつなぐ活動を行い、市内学校や図書館はもとより全国的に活躍されており、またその評価も高い団体です。よろしくお願いいたします。

【くにたち図書館について】

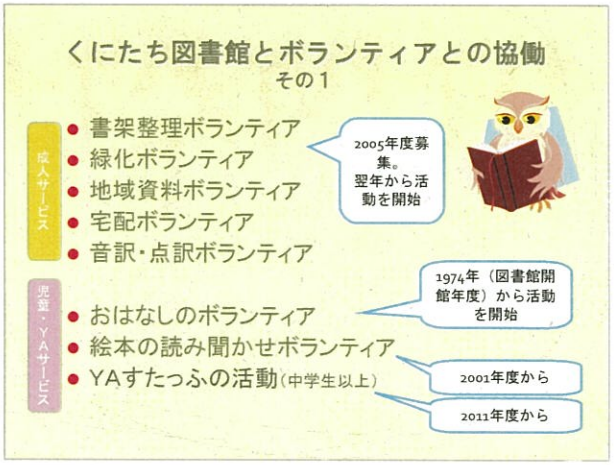
まず国立市の図書館についてですが、市のほぼ中央に中央図書館が、北西に北市民プラザ分館の二つの図書館があります。中央はおよそ1400㎡、25万冊、北は500㎡、7万冊の蔵書です。それから5つの分室が市を囲むように立っています。蔵書は5,000冊から12,000冊程度、市の防災センターや福祉センターに間借りした家庭的な雰囲気の図書室という感じです。最後に公民館図書室です。公民館で行われる大人のための講座資料を中心とする蔵書構成で、児童書は置いていません。これら8館のネットワーク全体で成人・児童の資料約44万冊の蔵書があります。

図書館や分館分室では、施設規模は小さいながら、絵本の読み聞かせやおはなし（素語り）、工作教室、人形劇など、子どもと本をつなぐための活動に力を入れています。その活動には長年、市民ボランティアの皆さんが様々な形で関わり続けて下さっています。

【ボランティアの活動について】

図書館でのボランティアの活動についてですが、現在図書館では8つのボランティア団体を育成し、協働しています。音訳、点訳、書架整理、地域資料、緑化、宅配のグループは主に成人対象の活動をしています。児童・青少年対象の活動として、おはなし（素語り）、絵本の読み聞かせ、YAすたっふの3グループが活動しています。

成人対象のボランティアは音訳・点訳を除き、平成17年の図書館主催のボランティア養成講座終了後に活動が開始されました。それに比較して、児童を対象とするボランティアはその活動歴が長いことが特徴です。

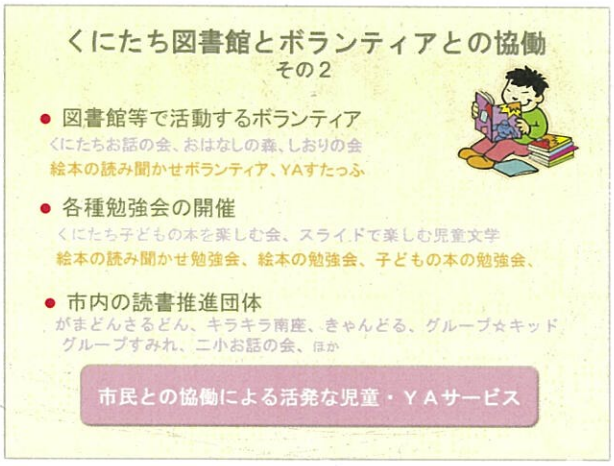


今日みなさんにご紹介する「くにたちお話の会」に代表されるおはなし（ストーリーテリング）のグループは、図書館開館時にはすでに活動をスタートされていました。現在は市内幼・保育園、小学校や学童など様々な場所で図書館と協働した活動を展開し、特に小学校では年間のべ 2000 人以上にお話を語り、学習現場でも高い信頼を寄せられています。

絵本の読み聞かせボランティアは 10 年以上の活動歴を持っています。現在は図書館分館分室での絵本の読み聞かせの活動のほか、保健センターや児童館など関連機関で乳幼児を対象とした絵本読みなども行っています。

ＹＡすたっふは、中・高校生を中心とするボランティアです。１０代が聞きたい講演会を自分たちで作り上げてゆく、「ＹＡ講演会」の企画・運営を中心に、ＹＡコーナーの特集棚づくり、地域にある一橋大学の図書系サークルとの交流、一日図書館員体験など活動を広げています。

また、これら児童サービスに関わっているボランティアグループでは、活動を支えるためにメンバーが自主的に様々な勉強会を主催、参加していることも特徴です。図書館職員が関わって、図書館主催として活動しているグループだけでも 10 団体あり、地域の自主的な読書推進活動団体を加えると 20 団体近くになります。その歴史は図書館設立時より長い歴史を持っているものも多く、人口およそ７万人、広さ約７㎢という市の規模を考えると、いかに活発な活動かが実感できると思います。このような活発な市民活動をベースとした、協働による児童・ＹＡサービスが、今回の受賞の大きな理由であり、図書館としても大変名誉なこととして受け止めております。



では次に「くにたちお話の会」の円谷さんに交代して、図書館と主に歩んだ、というよりむしろ、図書館を支えていただいた歴史についてお話をいただきたいと思います。

【くにたちお話の会について】

「くにたちお話の会」代表の円谷です。では図書館と私どもの会との協働の内容などをお話したいと思います。まずは、会の歴史について少し説明いたします。

国立市の中央図書館設立以前、国立市民の学習拠点としては公民館と公民館図書室がありました。公民館の講演会で、児童文学者石井桃子さんや、松岡享子さんの講演会が企画されました。その頃市内では、自宅の一室を開放した「家庭文庫」や集会所での「地域文庫」が７つもあり、互いに活発な交流が行われていました。

その中で私ども「くにたちお話の会」の前身である「ふたば文庫」代表の光野さんや「水よう文庫」主催者の平塚さんたちは、子どもと本を結びつけるために、1967 年からおはなし（素

語り）の勉強会を開始いたしました。先生として、アメリカ留学からお帰りになったばかりの松岡享子さんに先生としておいでいただきました。これが現在の会の始まりです。

文庫活動を中心としたこのような子どもへの読書支援活動の中で、市民のための図書館設立の機運が高まり、1974年の中央図書館設立へと至ります。図書館設置に関しては、図書館建設審議委員として平塚、光野さんが選出され、地域・家庭文庫活動の実践をふまえて子どもが本と出合う場所、児童サービスの重要性を説かれて、当時全国でも珍しい「おはなしのへや」を設計に盛り込んだ児童室が中央図書館にできました。

また、市を取り囲むような位置にある分室の位置についても、その下地には子どもの読書環境への配慮があります。子どもの足で行ける範囲に豊かな本との出合いを用意しようと、公民館主催の読書会の活動場所であった防災センターや福祉センターに、市民が児童書を自発的に持ち寄りあったことがその始まりです。これが現在も生きているのです。

【おはなしについて】

さて、ところでここまで何回か話の中に出てきている「おはなし」について、少し説明を加えたいと思います。

多くの図書館では、児童サービスとして「お話会」などの名前で会を持つことがありますが、多くは絵本の読み聞かせを中心とした活動となっています。絵本を読み聞かせることで物語世界を体験する、という意味で使われているようですが、私どもの会では「絵本の読み聞かせ」と「おはなし」という言葉は、はっきり別なものとして区別して使っています。

「おはなし」は素語り、ストーリーテリングとも言い、昔話や創作のお話を一語一句丸ごと暗記し、聞き手の前では何も見ずに語ることを言います。しかし、この「おはなし」を体験されたことのない方もいるかと思いますので、今日はグリムの昔話から「おいしいおかゆ」というお話の冒頭を少しだけ語ってみようと思います。

おいしいおかゆ　「おはなしのろうそく」
―（東京子ども図書館より）―

いかがでしたでしょうか。このように、自分の中からお話を取り出して相手へ直接語りかけ、その世界を共有する体験を私どもの会では図書館と協働して開館以降ずっと行ってきております。また図書館の主催事業として学校でのお話会も始まり、現在に至っています。今後はさらに、保育園・幼稚園でも実施していく予定です。

おはなしの活動について少し補足いたしますと、対象を子どもに限定しているわけではなく、1972年から毎月1度「大人のためのお話会」をスタートし今年度5月には400回を迎えています。図書館開館後は場所を図書館に移して継続中です。2004年からはもう一つ、図書館が主催の「大人のためのお話会」も始まり、近隣の市民の方々にも大勢ご参加いただいております。

最後になりますが、これまで図書館と一緒に私どもの会が活動する中で、大事にしてきたことについてお話したいと思います。

【図書館とボランティアの関係】

まずは図書館とボランティアとの関係作りです。それぞれが立場の違いを明確にしながら、それを理解しつつそれぞれのできること、役割を果たすことがとても重要だと思っております。お互いが目的や問題意識を共有し、働きを十分に行うために、話し合いを持つことも大切です。そのため会と図書館とは年度初めに話し合いを持って、おはなしの活動の目的や課題を確かめあっています。

これからとしては、低年齢の子どもたちへの関わりを深めていきたいと思っています。人間形成の核となる言葉の獲得、母国語としての日本語の豊かさや美しさを、耳から沢山のお話を楽しんでもらう中で伝え継いでいきたいと考えています。以上で発表を終わります。どうもありがとうございました。

【会場からの質問】

・絵本の「読み聞かせ」という言い方に、「やってあげる」という押し付けがましさを感じるが、何か他に良い言い方はないか。また、会では大人にも絵本を読んでいるのですか。

＜回答：円谷さん＞

・「読み聞かせ」の言い方で、他の言い回しを知りませんが、何か良い名称があるといいですね。

・私どもの会では、大人に「おはなし」はしていますが「絵本読み」はしていません。また大人への絵本読みについては、高齢者施設などでボランティアをされている団体の方から、大変好評だというお話を伺ったことがあります。